

展示室7

じょうしゅうやまえが
上州の山を描く

2025年10月28日(火)～12月16日(火)

群馬県は関東平野の北西部に位置し、日本最大の平野から北部の標高2,000m級の山々まで、多様な地形と豊かな自然に恵まれています。三大奇勝にあげられる妙義山などは古くから人々の関心を集めていますし、また、見慣れた何気ない風景であっても、一度、故郷を離れた者にとっては特別に感じることもあるでしょう。

前橋出身の詩人、萩原朔太郎^{あんとん}は、暗澹たる思いで乗った故郷へ帰る汽車で「まだ上州の山は見え^{きむらさんざん}ずや」と赤城山を詠みました。その詩「帰郷」を書詩一体を目指した木村三山^{たかはしつねお}による書で紹介します。高橋常雄^{こざんしゅんせつ}による《故山春雪》の雪に覆われた赤城山は、前橋に生まれた彼にとってもやはり故郷を表すものでした。暗い空に浮かび上がる白い山は、心の拠り所かのように静謐^{せいひつ}に満ちた空間を作り上げています。奥田元宋^{おくだげんそう}による《妙義^{みょうぎ}》では、郷愁のような捉え方は無く、早春の青空に映える山容にフォーカスを当てており、色づきはじめた緑は模糊として煙るように描かれています。礧部草丘^{いそべそうきゅう}の《谷川岳^{たにがわだけ}》では、晩年期の特徴である華やかな濃彩による重厚感とともに、対比的なモチーフの妙を見ることができます。「上毛三山^{じょうもうさんざん}」で知られる赤城山、榛名山、妙義山、そして新潟県との県境に位置する谷川岳を画題とした作品の数々をおたのしみください。

Nº	作者名	作品名	制作年	技法材質・形状	寸法（縦×横cm）	備考
1	きむらさんざん 木村三山	ききょう 帰郷	昭和61（1986）年	紙本墨書・二幅対	各116.3×69.7	木村幸子氏寄贈
2	たかはしつねお 高橋常雄	こざんしゅんせつ 故山春雪	昭和62（1987）年	紙本着色・額装	97.0×162.0	高橋富枝氏寄贈
3	しおばらともこ 塩原友子	あかぎやままんだらずびょうぶ 赤城山曼荼羅図屏風	昭和60（1985）年	紙本着色・幀装 （四曲一隻屏風）	51.5×160.5	作者寄贈
4	塩原友子	はるなさんまんだらずびょうぶ 榛名山曼荼羅図屏風	平成元（1989）年	紙本着色・幀装 （四曲一双屏風）	各169.5×302.0	作者寄贈
5	高橋常雄	はるなさん 榛名山	昭和60（1985）年	紙本着色・額装	90.2×116.4	塩本秀雄氏寄贈
6	よもだそうえん 四方田草炎	いわやまみょうぎ 岩山（妙義）	昭和22-25 （1947-50）年頃	紙本着色・額装	82.1×119.4	四方田節子氏寄贈
7	なりたいっぽう 成田一方	みょうぎさんしゅうしよく 妙義山秋色	昭和20-40年代	紙本着色・額装	227.0×181.1	成田ちか氏寄贈
8	おくだげんそう 奥田元宋	みょうぎ 妙義	昭和48（1973）年	紙本着色・額装	169.0×231.0	作者寄贈
9	いそべそうきゅう 礧部草丘	たにがわだけ 谷川岳	昭和41（1966）年	紙本着色・幀装 （六曲一双屏風）	各155.0×362.0	礧部善作氏寄贈

* 作品保護のため、会場内の温度、湿度、および照度を調整して展示しています。
また、都合により展示作品を変更する場合もございます。ご了承ください。